

柏の景気情報（平成21年2月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年2月分）

○ 調査期間 : 平成21年2月16日 ~ 2月20日

○ 調査対象 : 柏市内108事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	108	82	75.9%
建設	19	17	89.5%
製造	24	18	75.0%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	22	16	72.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年2月の調査結果のポイント】

《業況DIが調査以来最低値のマイナス70ポイント台 全国値よりもわずかに下まわる》

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲74.3(前月水準▲65.3)となり、マイナス幅が▲9.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲58.8(同▲80.0)であり、△21.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲88.8(同▲66.6)、卸小売業▲74.1(同▲56.6)、サービス業▲75.0(同▲66.6)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲22.2ポ

【建設業】では「政治が落ち着かないと地域経済も活性化していかないのではと思います」(一般土木建築工事業)「昨年の原油高騰で、建設資材や油脂や鉄鋼製品の価格は上昇したが、現在は落ち着いているのに、なぜか同じように価格上昇した日用品や食品は値下げがないのが疑問」(土木工事業)「例年であれば、年度末の仕事は多少増える傾向にあったが、今年は悪い。個人(または小企業)の努力では、どうにもならない、早急な景気対策を希望」(電気工事業)などの、政治不安やそれに対する対策へのコメントが寄せられた。

【製造業】では「世間の景気悪化による設備導入時期の遅延はでているが、悪化影響は緩やかになっている。しかし、景気悪化の底がまだ見えない状態で進んでいっている」(その他の機械・同部分品製造業)「需要が少ないと今年は我慢するしかない。来年には供給側も絞られてバランスが取れるようになるかも？」(生コンクリート製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】では「輸入材料の価格が少し下がりはじめました」(菓子・パン小売業)「自社周辺ロードサイドにおいて、ファミレスの競争激化と出店過多に伴う閉店あり。反面近日に大型店舗やコンビニの出店があり、当面厳しいお客の奪い合い(過当競争)が続くと思います」(その他の飲食料品小売業)「2月値上げにてスタートした灯油が16日から値下げ提示に変更。しかし販売価格は暖冬で数量が伸びない分、一部を除き利益重視でカバーしているのが現状です。LPGは1月値下げ3月再値下げの計画目前に大幅値上げが確実になり、小売り価格再値下げは当面見送りの方針」(燃料小売業)「全体的にすべて悪化している」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】では「2月度は特に悪化した。顧客満足を今一度高めるために、自店の良いところ、悪いところをお客様の立場になり、洗い出している。満足から感動、感動から信頼される店へちょっとした気配りで心に残るサービスを目指す」(酒場・ピヤホール)「欧米ではペットの治療費の支払いができず、安楽死を選択する飼い主が増えている」(獣医業)などのコメントが寄せられた。

◎購買意欲低下

各業種から「企業業績の悪化はさらに進み、雇用調整も本格化していくと考えられ、個人消費・購買行動はさらに冷え込むと懸念されます。給与に関しても削減はありませんが、12月賞与は前年を下回った水準でした」(百貨店)「昨今の「百年に1度」と言われる世界同時不況の波が、徐々に食にも響いてくる感があります。また、青果物の流通形態が変化し、地方卸の取り扱いも減少傾向です。現在の青果物は消費者の少量購買の動きが鮮明になっています」(食料・飲料卸売業)「お客様の購入点数が少なくなりつつある。単価も下降傾向」(その他の各種商品小売業)「経済の低迷により、出張を含めた宿泊ビジネス利用が大きく減少・宴会利用ではセミナー・会議・宴席共に減少。個人消費の低迷により、レストランの夜の売り上げ悪し」(ホテル)などの声が多くあがってきている。

◎売上不振

各業種から「仕入単価の下落＝高単価の商品が売れない。土日の販売も落ちている」(時計・眼鏡・光学機械小売業)「商品が春ものとなったが、高額品を中心に売り上げは良くない」(その他の各種商品小売業)「2週目には売上高入店客数ともに低調な推移となったものの、バレンタイン実売期は前年を上回る推移となった。以降若干売上高は低調である」(各種商品小売業)などの声が多くあがってきている。

◎先行き不透明

各業種から「経営上以前は2～3年先まで予定が立ったが、2～3ヵ月先が読めないのが現状」(一般土木建築工事業)「世間の景気悪化による設備導入時期の遅延はでているが、悪化影響は緩やかになっている。しかし、景気悪化の底がまだ見えない状態で進んでいっている」(その他の機械・同部分品製造業)「陽気の進行とともに、景況の改善を期待したいが、先行きは暗い」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
H21年1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
見通し	▲58.5	▲47.0	▲66.6	▲54.8	▲68.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲74.3(前月水準▲65.3)となり、マイナス幅が▲9.0ポイント拡大した。

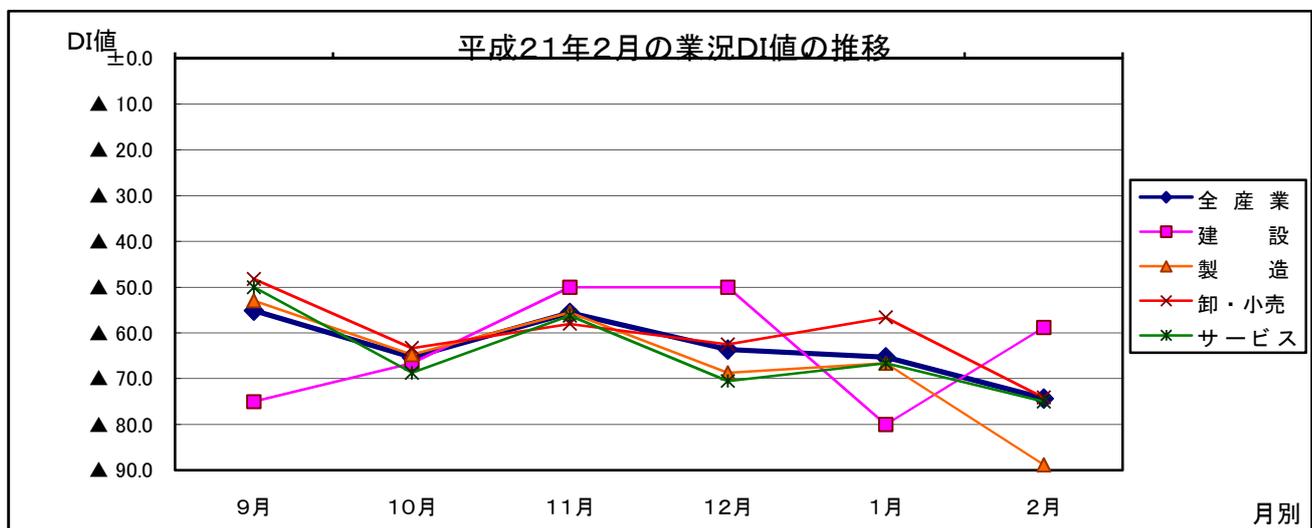
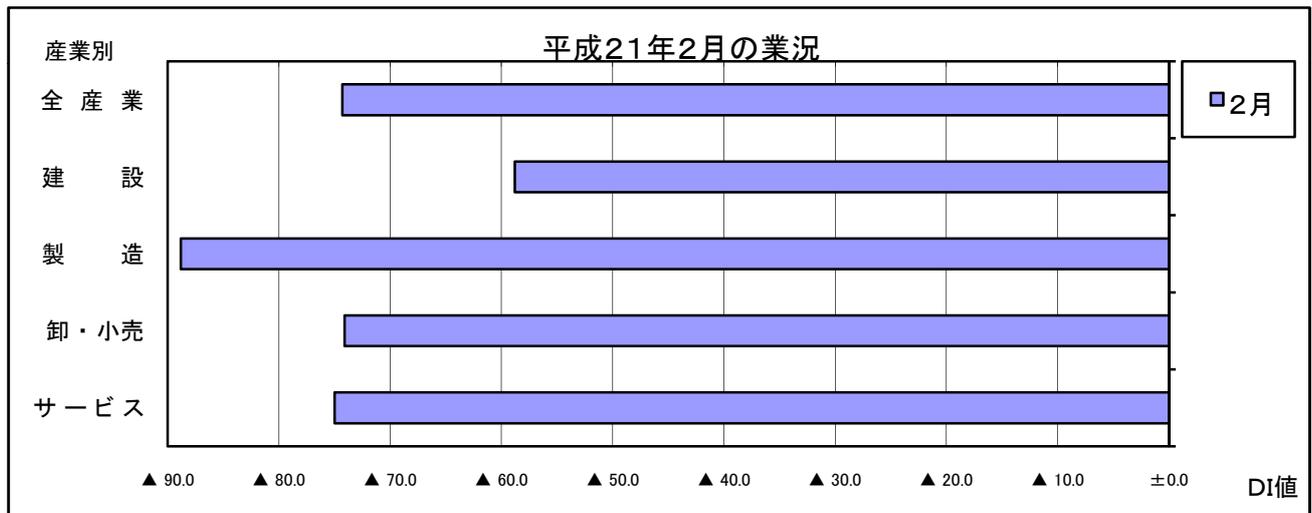
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲58.8(同▲80.0)であり、△21.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲88.8(同▲66.6)、卸小売業▲74.1(同▲56.6)、サービス業▲75.0(同▲66.6)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲22.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲58.5(前月水準▲58.9)となり、マイナス幅が△0.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲66.6(同▲83.3)、建設業▲47.0(同▲60.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲54.8(同▲40.0)、サービス業▲68.7(同▲66.6)である。

平成21年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	10月	11月	12月	平成21年	2月	先行き見通し	
	9月				1月		3月~5月	2月~4月
全産業	▲55.1	▲65.3	▲55.6	▲63.6	▲65.3	▲74.3	▲58.5 (▲58.9)	
建設	▲75.0	▲66.6	▲50.0	▲50.0	▲80.0	▲58.8	▲47.0 (▲60.0)	
製造	▲52.9	▲64.7	▲55.5	▲68.7	▲66.6	▲88.8	▲66.6 (▲83.3)	
卸・小売	▲48.2	▲63.3	▲58.0	▲62.5	▲56.6	▲74.1	▲54.8 (▲40.0)	
サービス	▲50.0	▲68.7	▲56.2	▲70.5	▲66.6	▲75.0	▲68.7 (▲66.6)	



【平成21年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲58.5(前月水準▲56.4)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。

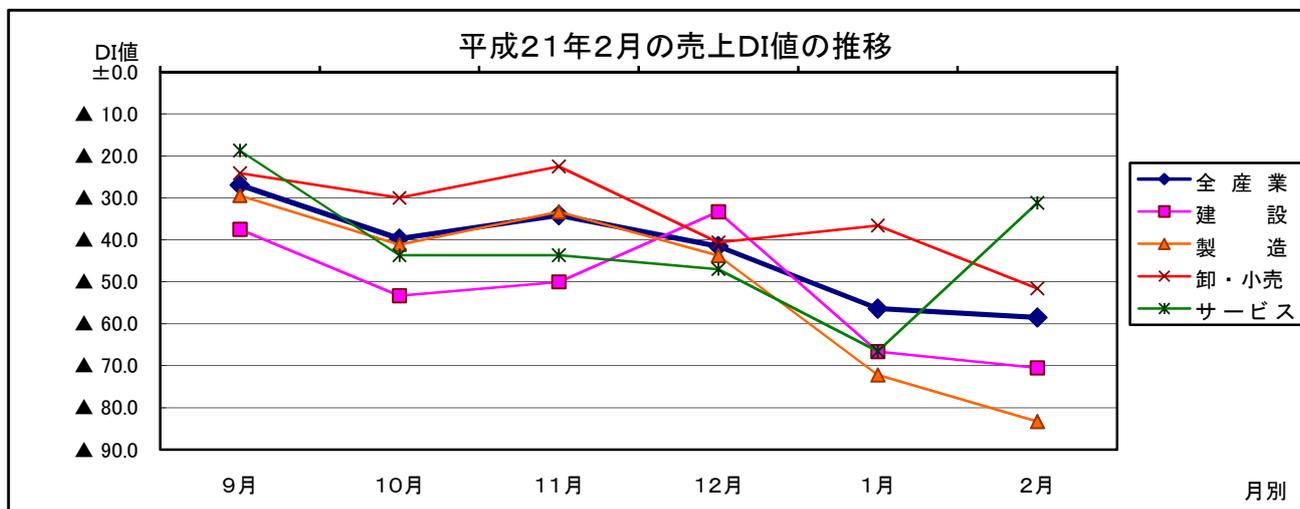
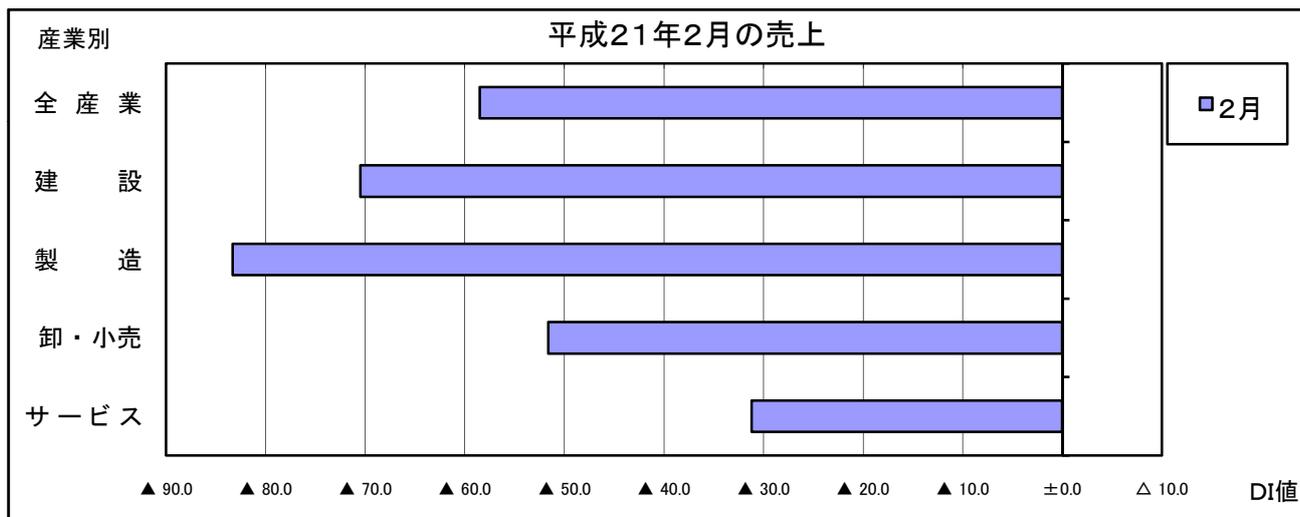
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲31.2(同▲66.6)であり、△35.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.6(同▲36.6)、製造業▲83.3(同▲72.2)、建設業▲70.5(同▲66.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.6(前月水準▲47.4)となり、マイナス幅が▲6.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が拡大する見通しであり、幅の大きい順に、建設業▲64.7(同▲46.6)、製造業▲72.2(同▲66.6)、サービス業▲43.7(同▲40.0)、卸小売業▲41.9(同▲40.0)である。

平成21年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲26.9	▲39.7	▲34.1	▲41.5	▲56.4	▲58.5	▲53.6(▲47.4)
建設	▲37.5	▲53.3	▲50.0	▲33.3	▲66.6	▲70.5	▲64.7(▲46.6)
製造	▲29.4	▲41.1	▲33.3	▲43.7	▲72.2	▲83.3	▲72.2(▲66.6)
卸・小売	▲24.1	▲30.0	▲22.5	▲40.6	▲36.6	▲51.6	▲41.9(▲40.0)
サービス	▲18.7	▲43.7	▲43.7	▲47.0	▲66.6	▲31.2	▲43.7(▲40.0)



【平成21年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.4(前月水準▲56.4)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

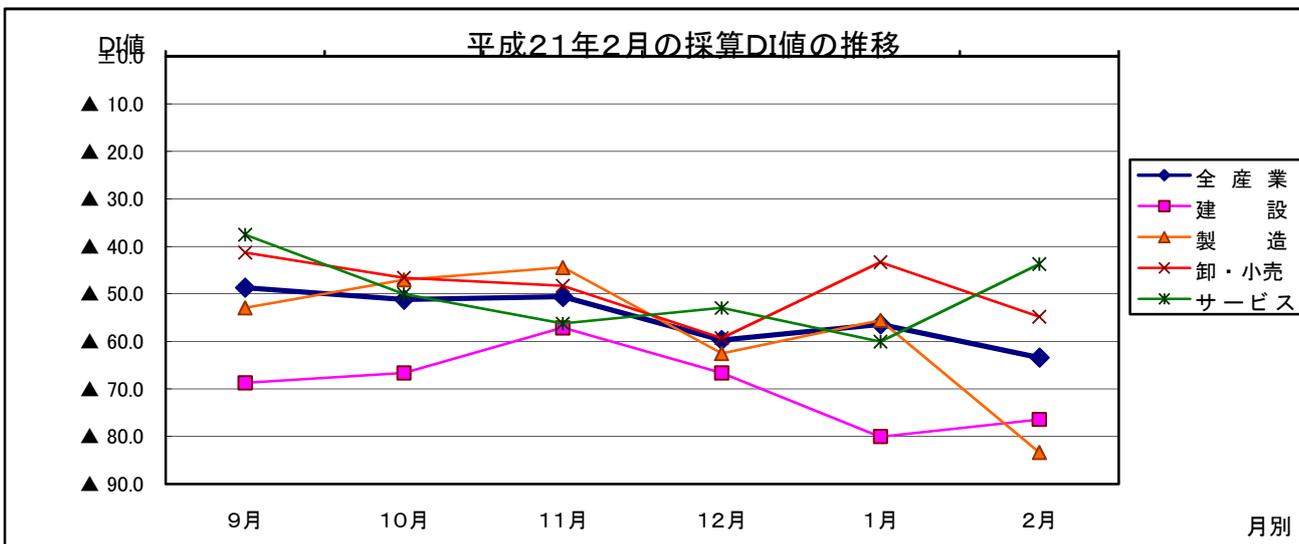
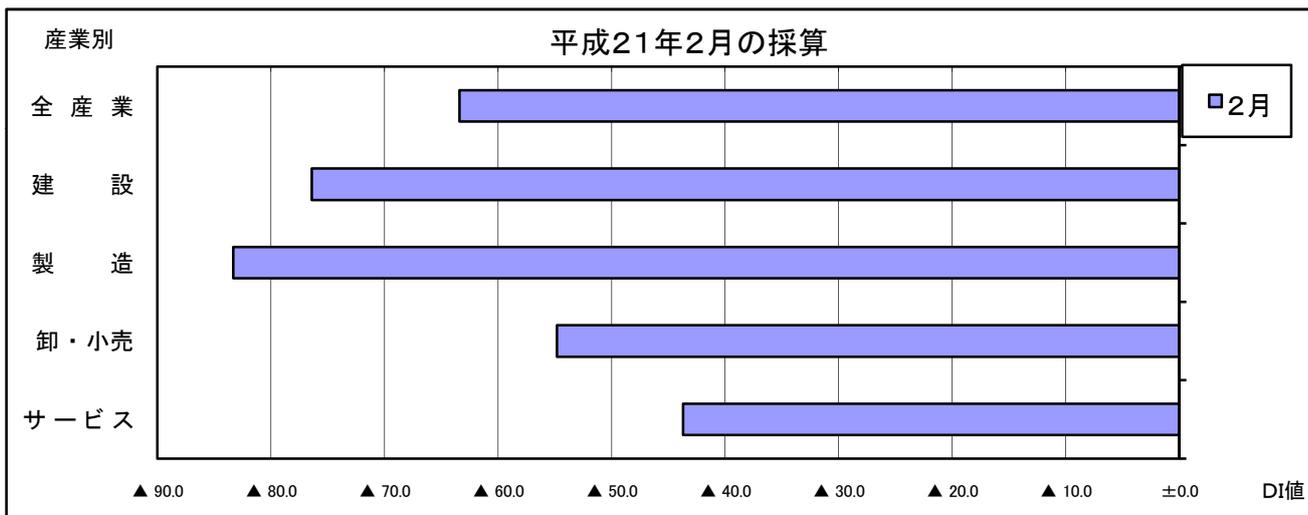
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲60.0)、建設業▲76.4(同▲80.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲83.3(同▲55.5)、卸小売業▲54.8(同▲43.3)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲27.8ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲54.8(前月水準▲52.5)となり、マイナス幅が▲2.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲66.6(同▲77.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲62.5(同▲46.6)、製造業▲66.6(同▲77.7)、卸小売業▲38.7(同▲36.6)である。

平成21年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲48.7	▲51.2	▲50.6	▲59.7	▲56.4	▲63.4	▲54.8(▲52.5)
建設	▲68.7	▲66.6	▲57.1	▲66.6	▲80.0	▲76.4	▲64.7(▲60.0)
製造	▲52.9	▲47.0	▲44.4	▲62.5	▲55.5	▲83.3	▲66.6(▲77.7)
卸・小売	▲41.3	▲46.6	▲48.3	▲59.3	▲43.3	▲54.8	▲38.7(▲36.6)
サービス	▲37.5	▲50.0	▲56.2	▲52.9	▲60.0	▲43.7	▲62.5(▲46.6)



【平成21年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.5(前月水準▲23.0)となり、マイナス幅が△14.5ポイント縮小した。

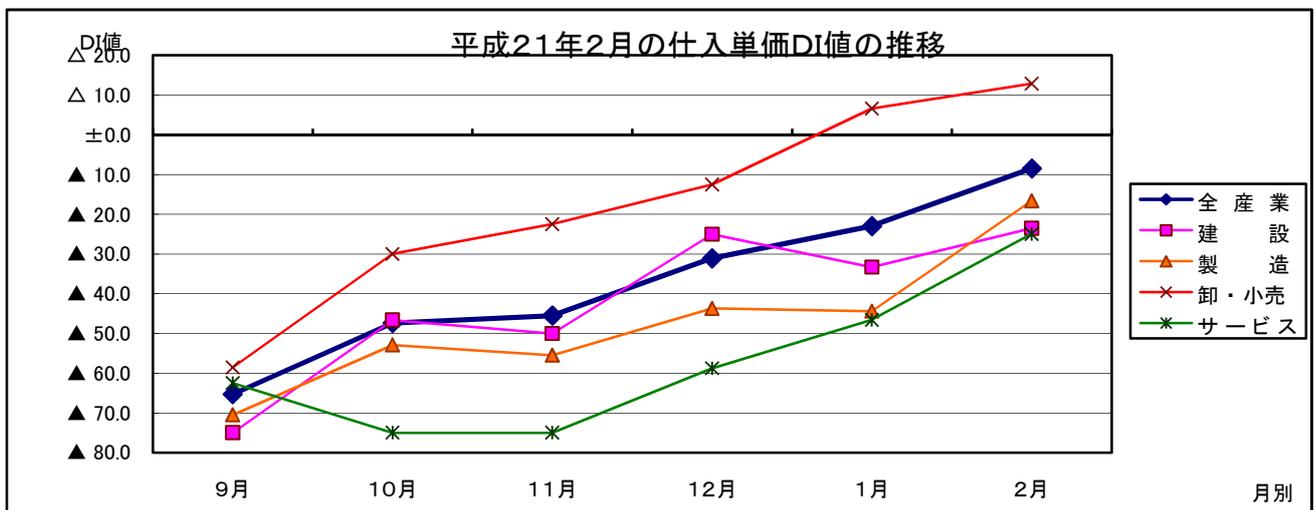
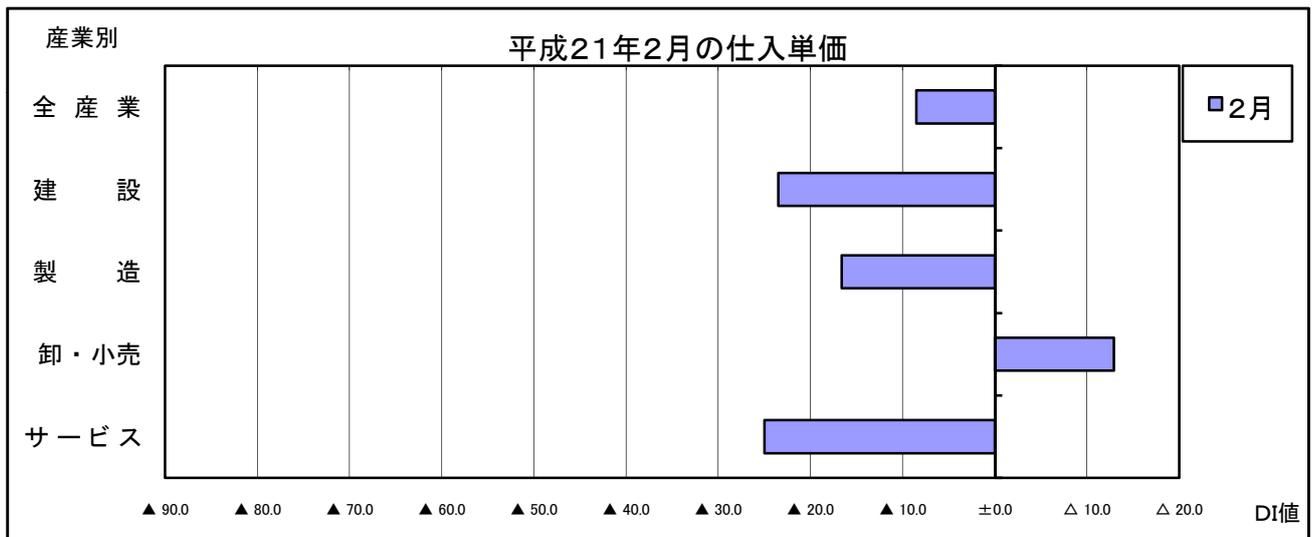
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△12.9(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.6(同▲44.4)、サービス業▲25.0(同▲46.6)、建設業▲23.5(同▲33.3)であり、特に、製造業、サービス業は、マイナス幅が20ポイント以上大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.0(前月水準▲3.8)となり、マイナス幅が▲2.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲43.7(同▲46.6)である。変らない見通しの業種は、製造業△5.5(同△5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△12.9(同△16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲17.6(同▲13.3)である。

平成21年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 65.3	▲ 47.4	▲ 45.5	▲ 31.1	▲ 23.0	▲ 8.5	▲ 6.0 (▲ 3.8)
建設	▲ 75.0	▲ 46.6	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 23.5	▲ 17.6 (▲ 13.3)
製造	▲ 70.5	▲ 52.9	▲ 55.5	▲ 43.7	▲ 44.4	▲ 16.6	△ 5.5 (△ 5.5)
卸・小売	▲ 58.6	▲ 30.0	▲ 22.5	▲ 12.5	△ 6.6	△ 12.9	△ 12.9 (△ 16.6)
サービス	▲ 62.5	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 46.6	▲ 25.0	▲ 43.7 (▲ 46.6)



【平成21年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.1(前月水準▲14.1)となり、マイナス幅が△14.5ポイント縮小した。

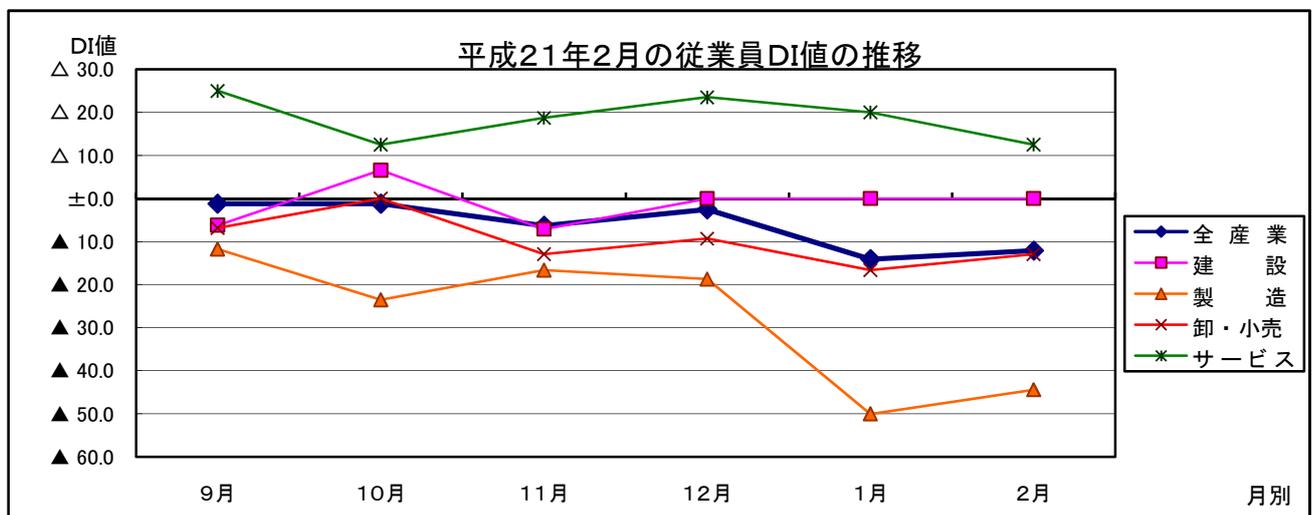
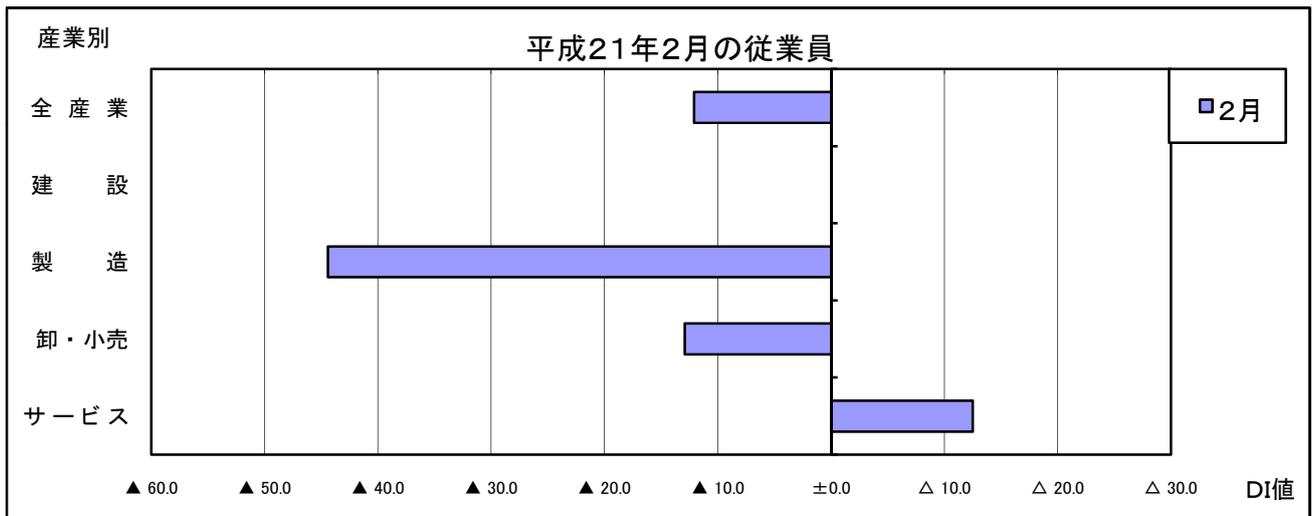
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲44.4(同▲50.0)、卸小売業▲12.9(同▲16.6)である。変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△12.5(同△20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.4(前月水準▲11.5)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲12.9(同▲13.3)である。変らない見通しの業種は、製造業▲50.0(同▲50.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△12.5(同△20.0)、建設業±0.0(同△6.6)である。

平成21年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 6.3	▲ 2.5	▲ 14.1	▲ 12.1	▲ 13.4 (▲ 11.5)
建設	▲ 6.2	△ 6.6	▲ 7.1	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0 (△ 6.6)
製造	▲ 11.7	▲ 23.5	▲ 16.6	▲ 18.7	▲ 50.0	▲ 44.4	▲ 50.0 (▲ 50.0)
卸・小売	▲ 6.8	±0.0	▲ 12.9	▲ 9.3	▲ 16.6	▲ 12.9	▲ 12.9 (▲ 13.3)
サービス	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.7	△ 23.5	△ 20.0	△ 12.5	△ 12.5 (△ 20.0)



【平成21年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.0(前月水準▲32.0)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

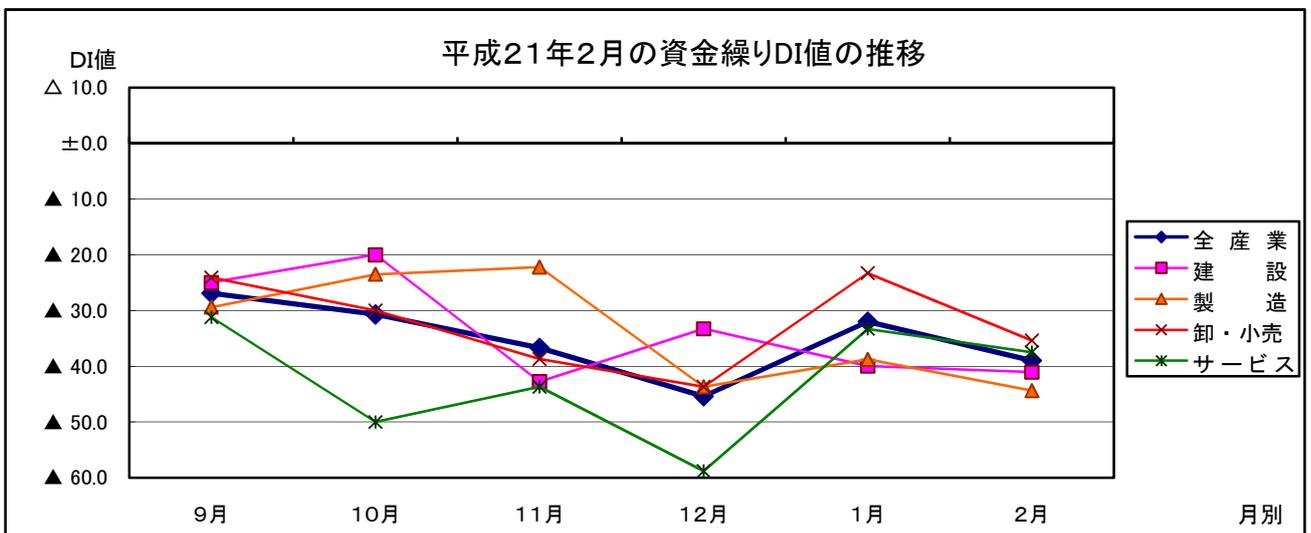
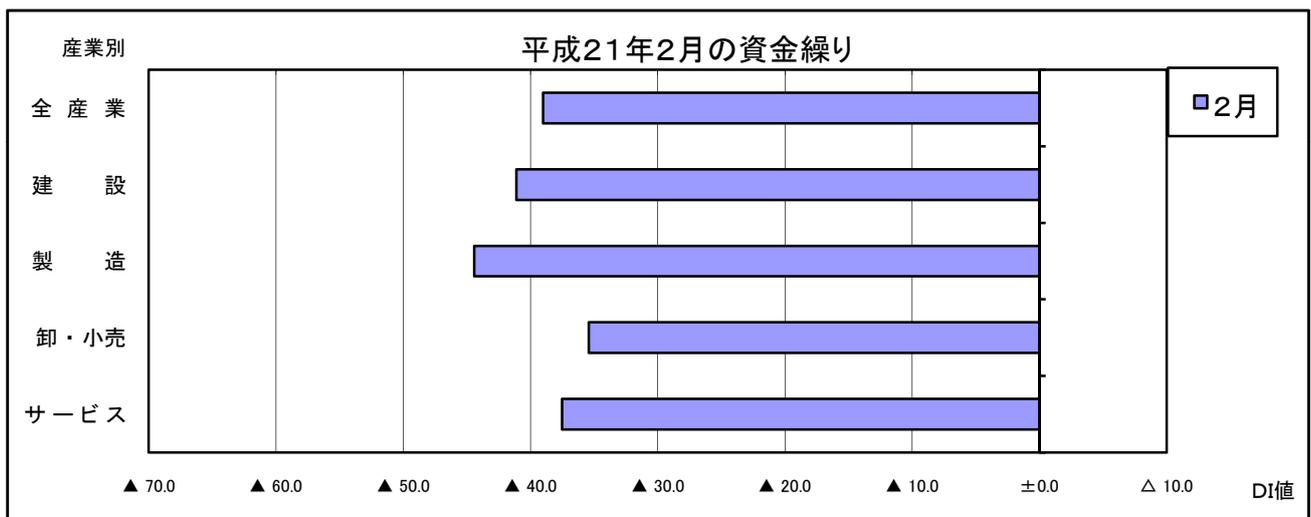
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が拡大する見通しであり、幅の大きい順に、卸小売業▲35.4(同▲23.3)、製造業▲44.4(同▲38.8)、サービス業▲37.5(同▲33.3)、建設業▲41.1(同▲40.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.5(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲38.8(同▲50.0)、建設業▲35.2(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.0(同▲16.6)、サービス業▲50.0(同▲40.0)である。

平成21年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲26.9	▲30.7	▲36.7	▲45.4	▲32.0	▲39.0	▲36.5(▲33.3)
建設	▲25.0	▲20.0	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲41.1	▲35.2(▲40.0)
製造	▲29.4	▲23.5	▲22.2	▲43.7	▲38.8	▲44.4	▲38.8(▲50.0)
卸・小売	▲24.1	▲30.0	▲38.7	▲43.7	▲23.3	▲35.4	▲29.0(▲16.6)
サービス	▲31.2	▲50.0	▲43.7	▲58.8	▲33.3	▲37.5	▲50.0(▲40.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 58.5	▲ 53.6	▲ 63.4	▲ 54.8	▲ 8.5	▲ 6.0	▲ 12.1	▲ 13.4
建設	▲ 70.5	▲ 64.7	▲ 76.4	▲ 64.7	▲ 23.5	▲ 17.6	±0.0	±0.0
製造	▲ 83.3	▲ 72.2	▲ 83.3	▲ 66.6	▲ 16.6	△ 5.5	▲ 44.4	▲ 50.0
卸・小売	▲ 51.6	▲ 41.9	▲ 54.8	▲ 38.7	△ 12.9	△ 12.9	▲ 12.9	▲ 12.9
サービス	▲ 31.2	▲ 43.7	▲ 43.7	▲ 62.5	▲ 25.0	▲ 43.7	△ 12.5	△ 12.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 74.3	▲ 58.5	▲ 39.0	▲ 36.5
建設	▲ 58.8	▲ 47.0	▲ 41.1	▲ 35.2
製造	▲ 88.8	▲ 66.6	▲ 44.4	▲ 38.8
卸・小売	▲ 74.1	▲ 54.8	▲ 35.4	▲ 29.0
サービス	▲ 75.0	▲ 68.7	▲ 37.5	▲ 50.0

【平成21年2月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	経営上以前は2～3年先まで予定が立ったが、2～3ヵ月先が読めないのが現状	・先行き不透明	一般土木建築工事業
	政治が落ち着かないと地域経済も活性化していかないのではと思います。	・政治不安	一般土木建築工事業
	昨年の原油高騰で、建設資材や油脂や鉄鋼製品の価格は上昇したが、現在は落ち着いているのに、なぜか同じように価格上昇した日用品や食品は値下げがないのが疑問	・原材料価格高止まり ・日用品高騰持続	土木工事業（舗装、しゅんせつを除く）
	集中していた学校や工場などの大規模物件が終了。今後自社でどのように開拓していくかが重要課題です	・新規案件開拓	板金・金物工事業
	運転資金の融資を有利な方法がないかアドバイスが欲しい 例年であれば、年度末の仕事は多少増える傾向にあったが、今年は悪い。個人（または小企業）の努力では、どうにもならない、早急な景気対策を希望。	・運転資金 ・設備投資減少 ・景気対策	管工事業（さく井を除く） 電気工事業
製造	世間の景気悪化による設備導入時期の遅延はでているが、悪化影響は緩やかになっている。しかし、景気悪化の底はまだ見えない状態で進んでいる。	・景気悪化 ・先行き不透明	その他の機械・同部分品製造業
	需要が少ないと今年は我慢するしかない。来年には供給側も絞られてバランスが取れるようになるかも？	・需要減少	生コンクリート製造業
卸小売	前月と同様の基調。2月のイベントであるバレンタインデーは昨年並みであったものの、衣料品は相変わらず低調です。催しイベントでも大きな効果はありません。企業業績の悪化はさらに進み、雇用調整も本格化していくと考えられ、個人消費・購買行動はさらに冷え込むと懸念されます。給与についても削減はありませんが、12月賞与は前年を下回った水準でしお客様の購入点数が少なくなりつつある。単価も下降傾向。	・衣料品不振 ・イベント不振 ・業績悪化 ・雇用調整 ・購買意欲低下 ・購買意欲低下 ・客単価下降	百貨店 その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	昨今の「百年に1度」と言われる世界同時不況の波が、徐々に食にも響いてくる感があります。また、青果物の流通形態が変化し、地方卸の取り扱いも減少傾向です。現在の青果物は消費者の少量購買の動きが鮮明になっています。野菜は入荷やや増加の単価安、果実は入荷減少の単価高で推移しています。今後も厳しい状況なので販売に工夫をしながら、販売先へアピールとフォローを、地元産品へも対応していきます。グループPB商品が売り上げ増に寄与している。直近4週で大きく伸びているカテゴリーは冷凍食品・調味料等導入率が高いところ。また、店内調理のフライヤーも売り上げ増に寄与している。タバコも対前年で130%	・PB商品	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	輸入材料の価格が少し下がり始めました。 自社周辺ロードサイドにおいて、ファミレスの競争激化と出店過多に伴う閉店あり。反面近日に大型店舗やコンビニの出店があり、当面厳しいお客の奪い合い（過当競争）が続くと思います。	・輸入価格下降 ・出店過多 ・過当競争	菓子・パン小売業 その他の飲食料品小売業
	2月値上げにてスタートした灯油が16日から値下げ提示に変更。しかし販売価格は暖冬で数量が伸びない分、一部を除き利益重視でカバーしているのが現状です。LPGは1月値下げ3月再値下げの計画目前に大幅値上げが確実になり、小売り価格再値下げは当面見送りの方針	・暖冬 ・値下げ見送り ・利益重視 ・再値上げ	燃料小売業（ガソリンスタンド含まず）
	3月に駅構内に書店が開業予定。どれだけ影響があるか心配 仕入単価の下落＝高単価の商品が売れない。土日の販売も落ちている。	・近隣店舗の影響 ・仕入単価下落 ・高額商品不振 ・売上不振	書籍・文房具小売業 時計・眼鏡・光学機械小売業
	商品が春ものとなったが、高額品を中心に売り上げは良くない。陽気の進行とともに、景況の改善を期待したいが、先行きは暗い。	・高額商品不振 ・売上不振 ・春もの商戦 ・先行き不透明	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	全体的にすべて悪化している	・業況悪化	婦人・子供服小売業
	2月度売上高は前年を上回る推移となった。2週目には売上高入店客数ともに低調な推移となったものの、バレンタイン実売期は前年を上回る推移となった。以降若干売上高は低調であるが、イベントを開催し集客につな	・売上不振 ・イベント開催	各種商品小売業

【平成21年2月の業種別業界内トピックス】

	オフィス家具やOA機器は、中古市場が活況を呈し、新品が滞っている。	・中古市場	書籍・文房具小売業
サービス	経済の低迷により、出張を含めた宿泊ビジネス利用が大きく減少・宴会利用ではセミナー・会議・宴席共に減少。個人消費の低迷により、レストランの夜の売り上げ悪し	・出張減少 ・宿泊宴会減少 ・購買意欲低下	ホテル
	2月度は特に悪化した。顧客満足を今一度高めるために、自店の良いところ、悪いところをお客様の立場になり、洗い出している。満足から感動、感動から信頼される店へちょっとした気配りで心に残るサービスを目指す。	・業況悪化 ・サービス強化	酒場・ビヤホール
	欧米ではペットの治療費の支払いができません、安楽死を選択する飼い主が増えている。	・厳しい業況	獣医業

◎購買意欲低下

- ・ 企業業績の悪化はさらに進み、雇用調整も本格化していくと考えられ、個人消費・購買行動はさらに冷え込むと懸念されます。給与に関しても削減はありませんが、12月賞与は前年を下回った水準でした (百貨店)
- ・ 昨今の「百年に1度」と言われる世界同時不況の波が、徐々に食にも響いてくる感があります。また、青果物の流通形態が変化し、地方卸の取り扱いも減少傾向です。現在の青果物は消費者の少量購買の動きが鮮明になっています (食料・飲料卸売業)
- ・ お客様の購入点数が少なくなりつつある。単価も下降傾向 (その他の各種商品小売業)
- ・ 経済の低迷により、出張を含めた宿泊ビジネス利用が大きく減少・宴会利用ではセミナー・会議・宴席共に減少。個人消費の低迷により、レストランの夜の売り上げ悪し (ホテル)

◎売上不振

- ・ 仕入単価の下落＝高単価の商品が売れない。土日の販売も落ちている (時計・眼鏡・光学機械小売業)
- ・ 商品が春ものとなったが、高額品を中心に売り上げは良くない (その他の各種商品小売業)
- ・ 2週目には売上高入店客数ともに低調な推移となったものの、バレンタイン実売期は前年を上回る推移となった。以降若干売上高は低調である (各種商品小売業)

◎先行き不透明

- ・ 経営上以前は2～3年先まで予定が立ったが、2～3ヵ月先が読めないのが現状 (一般土木建築工事業)
- ・ 世間の景気悪化による設備導入時期の遅延はでているが、悪化影響は緩やかになっている。しかし、景気悪化の底がまだ見えない状態で進んでいる (その他の機械・同部分品製造業)
- ・ 陽気の進行とともに、景況の改善を期待したいが、先行きは暗い (その他の各種商品小売業)

平成21年2月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲74.3に対し、「CCI-LOBO」が▲73.4で、柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲58.5に対し、「CCI-LOBO」が▲67.7で、柏の方がマイナス幅が9.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲63.4に対し、「CCI-LOBO」が▲67.9で、柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.5に対し、「CCI-LOBO」が▲28.0で、柏の方がマイナス幅がポイント19.5小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良く、特に建設業・製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.1に対し、「CCI-LOBO」が▲20.2で、柏の方がマイナス幅が8.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、特に製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.0に対し、「CCI-LOBO」が▲48.5で、柏の方がマイナス幅が9.5ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良く、特に建設業・サービス業は10ポイント以上良い。

平成21年2月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 74.3	 58.8	 88.8	 74.1	 75.0
CCI LOBO	 73.4	 75.8	 75.6	 71.5	 72.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 58.5	 70.5	 83.3	 51.6	 31.2
CCI LOBO	 67.7	 68.2	 72.3	 67.7	 66.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 63.4	 76.4	 83.3	 54.8	 43.7
CCI LOBO	 67.9	 70.8	 73.6	 66.5	 67.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 8.5	 23.5	 16.6	 12.9	 25.0
CCI LOBO	 28.0	 34.1	 28.4	 27.2	 28.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 12.1	 ±0.0	 44.4	 12.9	 12.5
CCI LOBO	 20.2	 37.4	 28.7	 8.2	 14.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 39.0	 41.1	 44.4	 35.4	 37.5
CCI LOBO	 48.5	 59.2	 54.2	 40.2	 47.8

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年2月16日～20日

調査対象：柏市内108事業所及び組合にヒアリング、回答数 82

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
見通し	▲58.5	▲47.0	▲66.6	▲54.8	▲68.7

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIは調査以来最低値のマイナス70ポイント台、全国値よりもわずかに下まわる。

2月の全産業合計のDI値(前年同月比・ベース以下同じ)は74.3(前月水準65.3)となり、マイナス幅が9.0ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業(58.8同80.0)であり、21.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業(88.8同66.6)、卸小売業(74.1同56.6)、サービス業(75.0同68.7)。

0(同66.6)であり、特に製造業はマイナス幅が22.2ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】「政治が落ち着かないと地域経済も活性化していかないのでは」と思います。「一般土木建築(事業)」「昨年原油高騰で建設資材や油脂や鉄鋼製品の価格は上昇したが、現在は落ち着いているのに、なぜか同じように価格上昇した日用品や食品は値上げがないのが疑問(土木事業)」「例年であれば、年度末の仕事は多少増える傾向にあったが、今年は悪い。個人(または小企業)の努力では、どこにもならない。早急な景気対策を希望(電気事業)などの、政治不安やそれに対する対策へのコメントが寄せられました。

【製造業】では、「世間の景気悪化による設備導入時期の遅延はでているが、悪化影響は緩やかになっている。しかし、景気悪化の底がまだ見えない状態が進んでいっている(その他の機械・同部分品製造業)」「需要が少ないと今年は我慢するしかない。来年には供給側も絞られてバランスが取れるようになるかも。」(生コンクリート製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】では、「輸入材料の価格が少し下がりはじめました(菓子・パン小売業)」「自社周辺ロードサイドにおいて、ファミレスの競争激化と出店過多に伴つ

閉店あり。反面近日に大型店舗やコンビニの出店があり、当面厳しいお客の奪い合い(過当競争)が続くと思います(その他の飲食料品小売業)」「2月値上げにてスタートした灯油が16日から値下げ提示に変更。しかし販売価格は暖冬で数量が伸びない分、一部を除き利益重視でカバーしているのが現状です。LPGは1月値下げ3月再値下げの計画目前に大幅値上げが確実になり、小売価格再値下げは当面見送りの方針(燃料小売業)」「全体的にすべて悪化している(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられました。

【サービス業】では、「2月度は特に悪化した。顧客満足度を今一度高めるために、自店の良いところ、悪いところをお客様の立場になり、洗い出している。満足から感動、感動から信頼される店へちよつとした気配りで心に残るサービスを目指す(酒場・ビヤホール)」「欧米ではペットの治療費の支払いができません、安楽死を選択する飼い主が増えている(獣医学)などのコメントが寄せられました。

2月の景気キーワード

購買意欲低下

各業種から「企業業績の悪化はさらに進み、雇用調整も本格化していくと考えられ、個人消費・購買行動はさらに冷え込むと懸念

されます。給与に関して削減はありませんが、12月賞与は前年を下回った水準でした(百貨店)」「昨今の「百年に一度」と言われる世界同時不況の波が、徐々に食にも響いてくる感があります。また、青果物の流通形態が変化し、地方卸の取り扱いも減少傾向です。現在の青果物は消費者の少量購買の動きが鮮明になっていきます(食料・飲料卸売業)」「お客様の購入点数が少なくなりつつある。単価も下降傾向(その他の各種商品小売業)」「経済の低迷により、出張を含めた宿泊ビジネス利用が大きく減少。宴会利用ではセミナー・会議・宴席共に減少。個人消費の低迷により、レストランの夜の売り上げ悪し(ホテル)などの声が多くあがってきている。

売上不振

各業種から「仕入単価の下落」「高単価の商品が売れない。土日の販売も落ちている(時計・眼鏡・光学機械小売業)」「商品が春ものとなったが、高額品を中心に売り上げは良くない(その他の各種商品小売業)」「2週目には売上高入店客数ともに低調な推移となったものの、バレンタイン実売期は前年を上回る推移となった。以降若干売上高は低調である(各種商品小売業)などの声が多くあがってきている。

先行き不透明

各業種から「経営上以前は2、3年先まで予定が立つたが、2、3カ月前が読めないのが現状(一般土木建築(事業))」「世間の景気悪化による設備導入時期の遅延はでているが、悪化影響は緩やかになっている。しかし、景気悪化の底がまだ見えない状態が進んでいっている(その他の機械・同部分品製造業)」「陽気の進行とともに、景況の改善を期待したいが、先行きは暗い(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が74.3に対し、「CCI LOBO」が73.4で、柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業は10ポイント以上悪い。

CCIBO

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：平成21年2月16日～20日

調査対象：全国の404商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、最悪値を3カ月連続で更新

2月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(71.3)よりマイナス幅が2.1ポイント拡大して73.4となり、1989年4月の調査開始後の最悪値を記録した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売でほぼ横ばいとなったものの、他の4業種では拡大した。特に製造、サービスは調査開始後の最悪値を記録。

景気に関する声、当面する問題としては、原油や一部原材料価格の下落により、採算の改善を期待といった声があるものの、受注の大幅な減少や売上の低迷により、収益面では厳しい状況。また、米金融危機の影響に伴う先行きの不安や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声も非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月以上に強まっており、人員削減や倒産・廃業の増加に関する声が各業種から寄せられている。

【建設業】「公共工事の大幅な削減に伴う競争の激化に加え資金繰りも悪化するなど、厳しい状況(建築工事業)」、「景気悪化に伴う民間設備投資の中止・延期により、今後は売上がさらに減少する見込み(建築工事業)」、「発注先からのコストダウン要請により、収益が減少(左官工事業)」

【製造業】「販売先の業況悪化に伴う事業の縮小により、売上が減少(紙製造業)」、「来月以降の受注が大幅に減少するなど、先行きの見通しは厳しく、廃業する業者も発生(一般産業用機械製造業)」、「自動車関連の受注が対前年比70%以上減少し、稼働日も週3日と厳しい状況(自動車・附属品製造業)」

【卸売業】「業況の悪化に伴い、従業員の就業日数を削減(農畜産水産物卸売業)」、「資材価格は昨年同様に比べ高水準であるのに対し、取引先からの値下げ要求が強く、収益は減少(農畜産水産物卸売業)」、「今後、更なる受注の減少や売上の悪化が見込まれ、倒産・廃業の発生を懸念(家具・建具等卸売業)」

【小売業】「消費者の低価格志向が強まり、店頭商品しか売れない状況(百貨店)」、「売上の悪化に加え、競合他社との価格競争により、収益が減少(百貨店)」、「売上単価・数量ともに減少が続き、廃業も検討しなければならぬ状況(商店街)」、「サービス業」

【サービス業】「自動車・不動産関連業者を中心に、工関連の受注が減少(情報処理)」、「収益の悪化に伴い、人件費の削減を検討(食堂・レストラン)」、「ビジネス関連の来客数が減少し、売上が悪化(旅館)」

【一月のキーワード】
受注の大幅な減少
米金融危機の影響に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「公共工事の減少に加え、景気の悪化に伴う民間設備投資の減少により、売上が大幅に悪化(境港・建築工事業)」、「住宅産業は昨年以上に厳しく、発注件数もかつてないほどの落ち込み(岩手県・建築工事業)」、「製造業からは、「世界的な不況の影響から、自動車を始め工作機械、建設機械・家電製品の受注が大幅に減少(金沢金属製鋼製造業)」、「受注は対前年比で50%の減少、今後はさらに悪化する見込み(袋井・その他の機械製造業)」などの声も寄せられている。

【消費マインドの冷え込み】
景気の悪化や先行きへの不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上の悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「昨年に比べ、冬物衣料や家電品、寝具類の売上が減少(赤穂・百貨店)」、「低価格品であっても生活必需品以外は売れない厳しい状況(ひたちなか・その他の小売業)」、「年明けから売上の低迷が続き、飲食業の空店舗も増加(全沢・商店街)」、「サービス業からは、「特に平日夜の売上が大幅に減少するなど消費意欲の低迷が顕著(館山・食堂・レストラン)」、「来月以降の来客数の増加を期待しているが、予約は小な、不安な状況(銚子・旅館)」といった声がある。

【雇用情勢の悪化】
こうした売上の低迷を始めとする業況悪化の影響などから、2月は、倒産・廃業に加え雇用調整や人員削減を行ったとの声が顕著である。建設業からは、「厳しい状況が続く、従業員を増やさずに社内での人員をやり繰りし、人件費を抑えている(十別・一般事業)」、製造業からは、「受注の大幅な減少により、従業員の定時退社や週休が3日となり、一部業者では人員削減も実施(豊橋・自動車・附属品製造業)」、「自動車・建築関連の売上減少に伴い、時間外勤務がなくなり、従業員の賃金が減少(大津・計量器測定器等製造業)」、小売業からは、「業況が悪化し、退職者の補充を行わず人件費を抑制(都城・百貨店)」、「サービス業からは、「現在の厳しい状況では従業員を雇用する余裕はなく、家族で営業している店舗が多い(水戸・食堂・レストラン)」などの声も寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲61.2	▲70.8	▲59.8	▲59.7	▲59.2	▲59.7
10月	▲64.6	▲71.1	▲59.8	▲63.8	▲64.4	▲65.9
11月	▲66.7	▲70.0	▲68.3	▲67.6	▲64.8	▲64.6
12月	▲70.2	▲74.2	▲72.7	▲67.6	▲69.2	▲67.3
1月	▲71.3	▲73.2	▲72.5	▲71.6	▲70.6	▲69.6
2月	▲73.4	▲75.8	▲75.6	▲71.1	▲71.5	▲72.6
見通し	▲67.1	▲71.7	▲73.9	▲60.7	▲64.8	▲62.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI